

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立八幡中央高等学校 全日制課程

自己評価					
学校運営計画(4月)			評価(総合)		
学校運営方針	校訓および教育目標に則った教育実践により、中央生としての自覚と高い志を持ち社会に貢献できる生徒を育成し、地域や広く社会に信頼される学校文化を築いていく				
昨年度の成果と課題	重点目標	具体的目標			
<p>本校は創立107年目を迎える伝統校である。学校周辺の地域には本校の卒業生も多く、同窓会からも物心両面にわたり温かい支援を受けており、その期待も大きい。その一方で学校周辺地域では、中学校の生徒数の減少が続いており、本校でも生徒数の確保が難しくなっている。そのような状況において、本校の果たすべき使命は、対外的には保護者や地域に対して確固たる進学実績を示すことであり、校内的には急激に変化する社会に柔軟に対応し、地域で貢献できる人材を育成することである。</p> <p>そこで、今年度も不易流行を大切にしながらも生徒の実態に応じた教育活動の見直しを推進し、生徒に能動的に学ぶ姿勢を身に付けさせるとともに、一人ひとりの能力を最大限に引き出すための個別最適化された学びを実現することにより、主体的に進路を選択する力、その実現に向けて粘り強く取り組む力、さらには社会の変化に柔軟に対応できる創造性豊かな生徒の育成を目指す。</p> <p>また、少子化と私学への流失がある現状から、戦略的で積極的な広報活動を推進する。引き続き生徒募集を本校の重要なミッションとして位置付ける。</p>	①学習指導(基礎学力の定着、学びに向かう力の育成)	鍛ほめ福岡メソッド及び個別最適化された授業の提供により、生徒の自ら学び考える力を育成する。			
	②学習指導力の向上に向けたICT機器の活用	ICT機器を活用した生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実践による授業改善と適切な評価により生徒の創造的思考および学ぶ意欲を喚起する。			
	③進路指導(高い志を持った生徒の育成)	全体計画に沿ってキャリア教育を推進し、生徒により高い目標設定を促し、生徒の主体的な進路選択・決定およびその実現を支援する。			
	④生徒指導(あるべき姿と誇りを大切に生徒の育成)	厳しさの中にも温かみのある生徒指導及び生徒主体の学校行事・部活動等を通して、自己決定能力、自己肯定感、共感的人間関係を育成する。			
	⑤人権・同和教育の推進(自他を尊重する生徒の育成)	多様性を認め、自他を尊重し、いじめや差別のない教育環境をつくる取組を推進する。			
	⑥特色ある教育の推進(他校と差別化された教育活動の推進)	芸術コース・特進クラスの目的・目標に即した取組を推進し、新たな特色を創出する。			
	⑦「社会に開かれた教育課程」の実現	SDGs活動やPTA・同窓会・地域の小中学校との連携を通して、地域に根ざした学校づくりを推進する。			
	⑧広報活動(教育活動の積極的発信)	中学校・保護者・地域・同窓会等に本校の魅力ある教育活動を発信する戦略のある積極的広報活動を推進して、生徒募集につなげる。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
学務部	教務課	<p>充実した正課授業の実現</p> <p>基本的な生活習慣の確立・家庭学習の定着</p> <p>情報課との連携・成績処理等の管理徹底</p>	<p>「わかる授業」ができる授業等、生徒が積極的に参加できる充実した授業の実現に向けて改善を図る。また、昨年度から開始した観点別学習状況評価を適切に実施・検証し、指導・評価の改善および生徒の自ら学び考える力の育成を図る。また、カリキュラムマネジメントの一環として、授業評価アンケートを年2回実施し、授業の工夫・改善に役立てる。</p> <p>保護者の協力を得ながら、関係各所とも連携を図り、安易な欠席・遅刻を減少(出席率99%以上目標)させる。また、学年・教科と連携をとりながら、1日2時間以上の家庭学習時間の確保に努めさせる。</p> <p>観点別学習状況評価が円滑かつ適切に実施されるように、成績処理システム及び教務規定の点検・見直し・整備等を行う。また、情報課と連携しながら校務支援システムの円滑な運用を行い、成績処理・生徒指導要録等の管理徹底を行う。</p>		
	広報・庶務課	認知度を高める広報活動・充実した教育活動の推進	同窓会やPTA等、関係各所との連携を深めることで教育活動の活性化を図る。また、本校の魅力を発信する機会を創出し、中学生や地域等へ戦略的に情報発信を行う。		
	生徒育成部	<p>自己決定能力の育成</p> <p>自己存在感の醸成</p> <p>共感的人間関係の確立</p> <p>健康教育課</p> <p>生徒の安全・安心な学校生活の保障</p>	<p>挨拶の励行、時間の厳守、校則の遵守を3本柱とし、礼節の指導を徹底し、規範意識の高揚に努める。また、基本的な生活習慣を確立させるために、生徒に向き合い、積極的な生徒指導を推進する。</p> <p>生徒会執行部をはじめ、各専門委員会の活性化を図り、生徒一人ひとりが達成感、充実感を体感できるように生徒に寄り添い、生徒会活動および部活動を推進する。</p> <p>生徒主体の学校行事や部活動を通して、自主的活動を推進し、母校愛や帰属意識を育てる。</p> <p>生徒の健康課題の把握と保護者との緊密な連絡体制を確立する。また、共生社会実現のためのインクルーシブ教育推進を目指した教育環境の整備と拡充を図る。</p>		
キャリア教育部	進路指導課	<p>3年間を見通したキャリア教育の推進</p> <p>第一進路希望の達成及び学校満足度の向上</p> <p>各種検定試験の資格取得率の向上</p>	<p>「朝の学習及びスタディサブリを活用した学び」、「総合的な探究の時間」、「模擬試験の活用」を柱とし、3年間で一貫性のある指導計画を作成し、実行する。</p> <p>特色ある芸術コースと特進クラスにおいて、地域や大学との連携を深める。また、総合的な探究の時間を通して、希望進路実現に向けた意識付けを行う。さらに、模擬試験を活用したPDCAサイクルを確立し、進学・就職ともに充実した指導ができるようにする。</p> <p>普通科については実用英語技能検定、数学検定を、芸術コースについては色彩検定や毛筆・硬筆検定を中心に、さまざまな資格試験の受験を奨励し、その成果を進路実現に活用させる。</p>		
	情報課	校内研修による教員の情報活用能力の向上と各種システムの円熟化	校内研修を実施し、授業をはじめとして、様々な機会におけるクロームブックの活用推進を図る。学校全体で生徒にとってより効果的なサービス活用を目指すとともに、システム運用に係る人的負荷の分配を図り、よりよいシステムの構築を推進する。		
	研修部	<p>教科科目横断型授業、ICT活用授業と、「主体的・対話的で深い学び」の推進</p> <p>読書の推進と芸術鑑賞会の維持発展</p> <p>人権教育課</p> <p>他者を思いやる生徒の育成及び生徒の自尊感情の涵養と安心・安全な学校生活環境作りの推進</p>	<p>今年度も授業研修として、年2回の研究授業週間を活用し、各教科が年1回以上、教科科目横断型授業やクロームブック活用に取り組むことを推進する。また研究授業の研究協議を職員研修会とし、新しい視点を取り入れた主体的な学び、その実践について教員相互で学び合う場を築く。</p> <p>今年度は「朝の学習」の時間に「朝の読書」を週1回組み込み、生徒の読書を後押しし読解力向上をめざす。「先生からのおすすめ本」企画も継続し、本に対する生徒の興味を刺激する。また、限られた予算の中で、良質でバラエティ豊かな芸術鑑賞会を維持できるように企画を工夫する。</p> <p>教育活動全般を通して「言葉の重み」や「他者の立場で考えることの大切さ」に触れる。また、積極的な声かけを通して生徒の自尊感情の涵養と安心・安全な学校生活環境作りを推進する。</p>		
1学年	素直な人間性の育成、学習習慣の定着と学力の向上、学年職員団の団結力	学校行事や日々の授業、学校生活を通して、素直にひたむきに努力できる生徒を育成する。朝学の内容の精選、スタディサブリの活用方法の具体化、面談時間の自学自習の内容の充実を通して学習習慣を確立させ、外部模試の平均点偏差値の向上を図る。担任会だけでなく、日頃から情報交換を密に行い、指導の方向性の確認等をしながら全員で生徒の指導をしていく体制を作る。			
2学年	高い規範意識の育成と進路選択に向けた情報収集能力・思考力・学力の向上	行事に向けた取り組みの中で集団における規範意識を育成する。朝学の内容をより充実させて学力の向上を図る。校外学習の機会を利用して広く社会に目を向けさせて、将来的な社会貢献について考えさせることで進路目標を具体化させる。			
3学年	第一希望進路の実現と社会人基礎力の育成	多くの学習機会を与え、指導体制を充実させることで学力の向上を図り、国公立大学進学20名以上を目指す。また、学校行事等を主体的に取り組ませる中で、将来社会で活躍するために必要な「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育てる。			
芸術コース	芸術の基礎的知識技能の習得と高い専門性の育成、及び地域貢献活動の推進	検定合格率90%、各種公募展上位入賞(九州大会以上20名)、芸術系国公立・難関私立合格者9名以上を目標に取り組み。芸術的スキルを生かした地域貢献活動を生徒主体で企画運営する。			
特進クラス	地域貢献できる人材の育成と4年制大学進学意識の醸成、実績向上	九州国際大学との連携事業を継続し、生徒の視野を広げ、進路について深く考える契機を与える。月水金のユメテカにおいては国数英を中心とした学力補充に注力する。			
事務室	教育環境の整備充実	学校教育目標を実現するため、積極的に必要となる施設及び物品の改修、修繕及び購入等を行う。			
	事務室の機能強化	学校教育目標を実現するため、予算のより効果的効率的運用を図るとともに、柔軟かつ臨機応変な予算対応を行う。			
		学校の課題等について共通理解を持ち、積極的に学校経営に参画する。			

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
	<p>A : 適切である</p> <p>B : 概ね適切である</p> <p>C : やや適切である</p> <p>D : 不適切である</p>
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
評価項目以外のものに関する意見	

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

--